

有明海 ノリ色落ち深刻

養殖網の一部撤去始まる



栄養塩不足が原因か「毎日1月22日」全国一のノリ産地である佐賀県の有明海で、重度の色落ちが起きたとして、部の漁業者が今季の養殖を断念し、養殖網の撤去を始めた。色落ちは昨年末から続く栄養塩不足が原因。例年より1カ月半も早い終了に、漁業者からは生活不安に加え、ノリ養殖自体の危機を訴える声も出ている。

有明海の栄養塩不足が起きたのは、昨年12月下旬。栄養塩を食べる植物プランクトンが増えたことが原因で、有明海西南部では養殖網の張り込みが再三延期された。栄養塩量はその後回復せず、色落ち被害は拡大しているという。

網の撤去を始めたのは、同県南部の太良町大浦地区。21日に撤去した大鋸(おおが)武浩さん(39)の網には、色落ちして黄色くなったノリが付いていた。ノリは例年な

ら1枚10円以上の単価が付くが、色落ちしたものは2円程度。「採算に合わず、今季はあきらめざるを得ない」と大鋸さん。「冬場にプランクトンが増えるのはおかしい」と表情を曇らせた。

佐賀県内のノリ漁業者は今年7日、国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防から出る排水が栄養塩不足の原因として、排水の制限などを求める大規模な海上デモを実施している。(写真

は1月7日、佐賀県のノリ養殖業者による海上抗議行動)



12月下旬からの養殖網張込みが延期された地域(佐賀新聞)

諫早開門調査 民主党に実施要請

【佐賀1月16日】国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門の開門調査について、古川康佐賀県知事は15日、国会内で民主党の広野ただし、佐藤公治両副幹事長と面談し、早期実施や実務レベルの意見交換の場の設置、問題解決へ向け農水省が主体的に取り組むことを要請した。

赤松広隆農相が求めた佐賀、長崎の知事同士の協議を昨年末に実施し、その結果報告と要請書を小沢一郎幹事長あてに提出した。佐賀県選出の大串博志財務政務官、川崎稔参院議員も同席した。

古川知事はタイラギが13年ぶりに豊漁の一方、ノリが取れなくなるなど不安定な海況が長く続いていることを説明。「干拓や排水門締め切りが原因の一端とすれば、どれぐらいの影響があるのかきちんと評価しないと再生につながらない。県民の一致した願い」と訴えた。

干拓地農家や背後地住民が抱える不安を解消する対策事業も同時に求め、開門で発生する干拓地の農業用水確保はため池造成などの対応策を挙げた。副幹事長側は開門調査の総費用などを尋ねた。